株式会社エー・アンド・デイ

（証券コード：７７４５　東証１部）

平成21年3月期　第２四半期決算説明会

平成20年11月7日

平成20年4月－平成20年9月

ご注意

本資料に含まれる予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本及び世界の経済動向、新たな技術開発の進展により変動することがあります。従って、当社としては、その正確性を保証するものではありません。

Contents

1. 第２四半期（累計）業績の総括
2. 第２四半期（累計）の概況
3. 計測・計量機器事業　実績−１
4. 計測・計量機器事業　実績−２
5. ＤＳＰ事業の業績について
6. 医療・健康機器事業　実績−１
7. 医療・健康機器事業　実績−２
8. 財務分析(貸借対照表)①
9. 財務分析(貸借対照表)②
10. 財務分析(ｷｬｯｼｭﾌﾛｰ)
11. 設備投資･減価償却費の推移
12. ２１年３月期通期見通し
13. 計測・計量機器事業　見通し−１
14. 計測・計量機器事業　見通し−２
15. 医療・健康機器事業　見通し−１
16. 医療・健康機器事業　見通し−２
17. ＤＳＰ事業強化
18. ＭＥ事業における取り組み
19. 生産体制の強化に向けて
20. 為替の影響について①
21. 為替の影響について②
22. 補足資料

第２四半期（累計）　業績の総括

ハイライト

半導体不況及び為替の影響等により、
売上は前期を下回る結果

ロシア現地法人を中心に販売管理費が
増加した事により赤字計上

事業拡大への布石（Ｍ＆Ａ・開発）は
打った

第２四半期（累計）の概況

（単位：百万円）

連結損益	２０／３期 ２Ｑ累計	２１／３期 ２Ｑ累計	前年同期比	２Ｑ累計予想	予想比	コメント
売上高	17,369	16,292	-6.2%	17,945	-9.2%	半導体不況、為替の影響大
売上原価	8,899	8,563	-3.8%	8,988	-4.7%	
販売費及び一般管理費	7,025	8,132	15.8%	7,598	7.0%	ADR（ロシア）を中心に増加
営業利益	1,445	-403	－ %	1,359	－ %	
経常利益	1,337	-718	－ %	1,052	－ %	
税引き前利益	1,332	-725	－ %	1,042	－ %	
当期純利益	865	-591	－ %	1,020	－ %	
１株当たり利益（円）	38.78	-26.67	－ %	45.71	－ %	

（注）21年3月期２Ｑ累計予想は、5月16日付の「平成20年度3月期決算短信」にて発表した予想であります（以下同じ）。

計測・計量機器事業　実績－１

（単位：百万円）

セグメント		20/3期 2Q累計	21/3期 2Q累計	前年同期比	2Q累計予想	予想比
計測・計量機器事業	売上高	9,134	8,162	-10.6%	9,677	-15.7%
	売上原価	5,348	5,056	-5.5%	5,416	-6.6%
	販管費	3,778	4,057	7.4%	3,860	5.1%
	営業利益	8	-951	－%	401	－%

業績のポイント

１．半導体不況（電子ビーム関連事業）の影響と、全般的な設備投資の一部先送りを主因に売上減少

⇒売上高は前期・予想ともに下回った

２．売上ポートフォリオの変化により粗利益率が悪化し、販管費は開発費用（DSP事業）を主因に前期・予想を上回る

⇒粗利益額の減少と販管費の増加により営業赤字

計測・計量機器事業　実績－２

（単位：百万円）

製品種別	２０／３期 ２Ｑ累計	２１／３期 ２Ｑ累計	前年 同期比	２Ｑ 累計予想	予想比
計測機器	1,014	816	-19.5%	844	-3.3%
計量機器	5,670	5,451	-3.9%	6,082	-10.4%
計測・制御・シミュレーションシステム（DSP）	1,524	1,602	5.1%	2,031	-21.1%
電子ビーム関連ユニット	926	293	-68.4%	720	-59.3%
売上合計	9,134	8,162	-10.6%	9,677	-15.7%

計測機器　：設備投資の抑制もあり予想を若干下回る結果

計量機器　：天秤・台秤等は堅調だが、インジケータ・ロードセル等の計量システム向けコンポーネントが伸び悩む

ＤＳＰ　：ＡＤＴ好調で全体でも前期比増だが、上期はベンチ等の大型案件は少なく予想には届かず

電子ビーム関連ユニット：半導体市況の悪化により売上大幅減

ＤＳＰ事業の業績について

（単位：百万円）

	用途種別	19/3期（実績）		20/3期（実績）		21/3期（実績）
		上期	下期	上期	下期	上期
新規事業	自動車関連	1,803	1,811	1,289	1,254	1,465
	試験機関連	42	78	78	60	51
	その他	211	187	157	68	86
	小計	2,056	2,076	1,524	1,381	1,602
既存事業へのＤＳＰ技術応用	特殊試験機関連	144	252	108	82	39
	計量制御関連	53	221	100	42	63
	医療機器					
	小計	197	473	209	125	102
合計		2,253	2,549	1,732	1,506	1,704
売上合計（通期）		4,801		3,238		

ＡＤＴは景気減速懸念の中好調に業績を伸ばし、去年から発売を開始したＯＲＩＯＮも顧客から高い評価。エンジンベンチも、シミュレーションベンチや適合ベンチといった付加価値の高いベンチが今後予定されており、来年からの本格的な普及・拡大に向けて、自動車会社と最終調整中。

医療・健康機器事業　実績－１

（単位：百万円）

セグメント		２０／３期 ２Ｑ累計	２１／３期 ２Ｑ累計	前年同期比	２Ｑ 累計予想	予想比
医療・健康機器事業	売上高	8,235	8,130	-1.3%	8,268	-1.7%
	売上原価	3,551	3,507	-1.2%	3,572	-1.8%
	販管費	2,562	3,418	33.4%	2,950	15.9%
	営業利益	2,122	1,205	-43.2%	1,746	-31.0%

業績のポイント

１．医療機器・健康機器ともにマーケット環境は堅調に推移

２．販管費については、ロシア子会社（ADR）で販売力強化のための人員大幅増・インフレによるコストアップにより費用増加

⇒営業利益は前期・予想を下回った

医療・健康機器事業　実績－２

（単位：百万円）

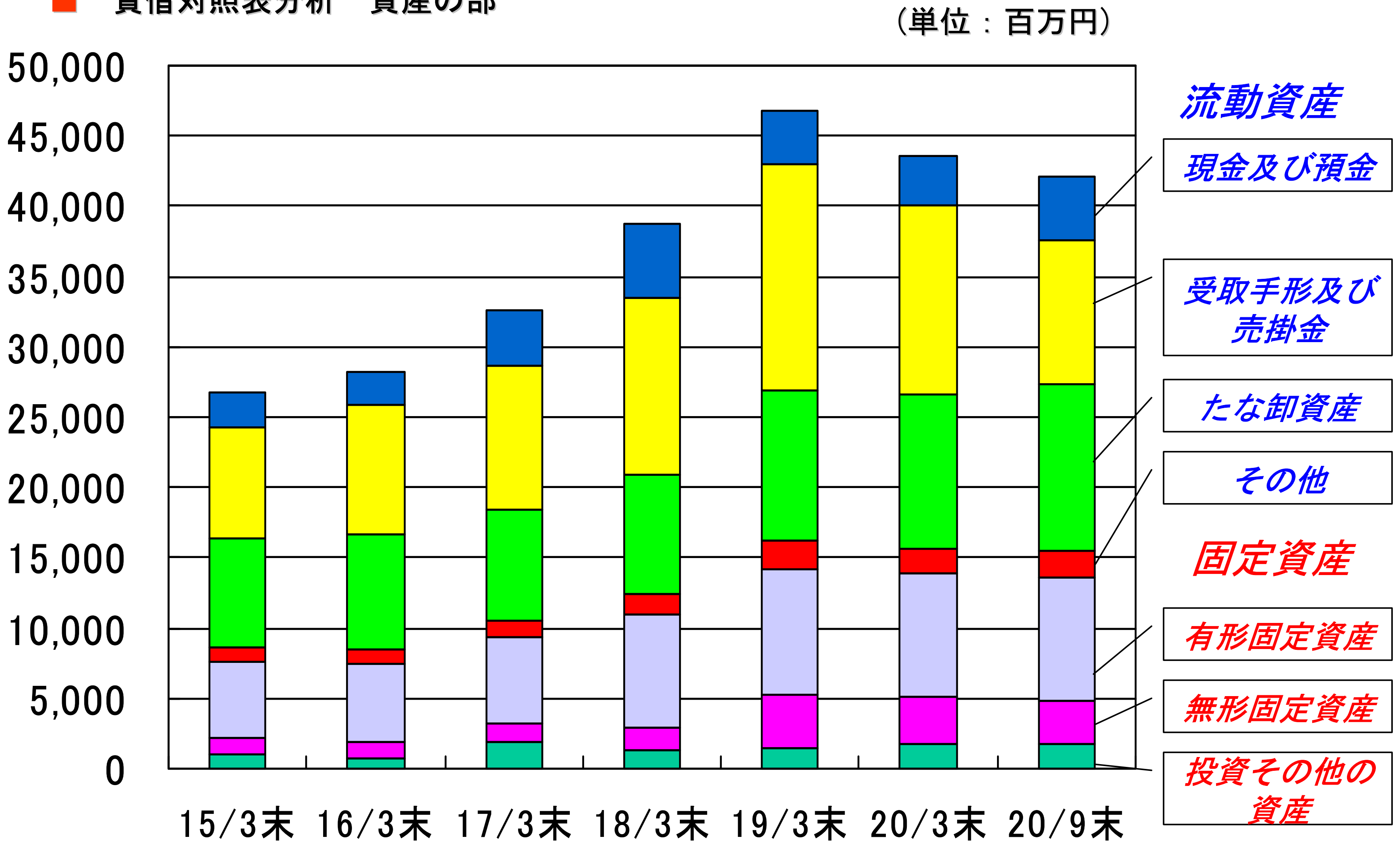
製品種別	20/3期 2Q累計	21/3期 2Q累計	前年 同期比	2Q 累計予想	予想比
医療機器	997	1,079	8.2%	1,170	-7.8%
健康機器	7,238	7,051	-2.6%	7,098	-0.7%
売上合計	8,235	8,130	-1.3%	8,268	-1.7%

医療機器：ABPMの保険点数化により携帯型自動血圧計が伸びたが、期待値には届かず

健康機器：ロシアは販売台数・売上ともに好調だが、米州が在庫調整の影響で売上減となり、全体では売上横這い

財務分析（貸借対照表）

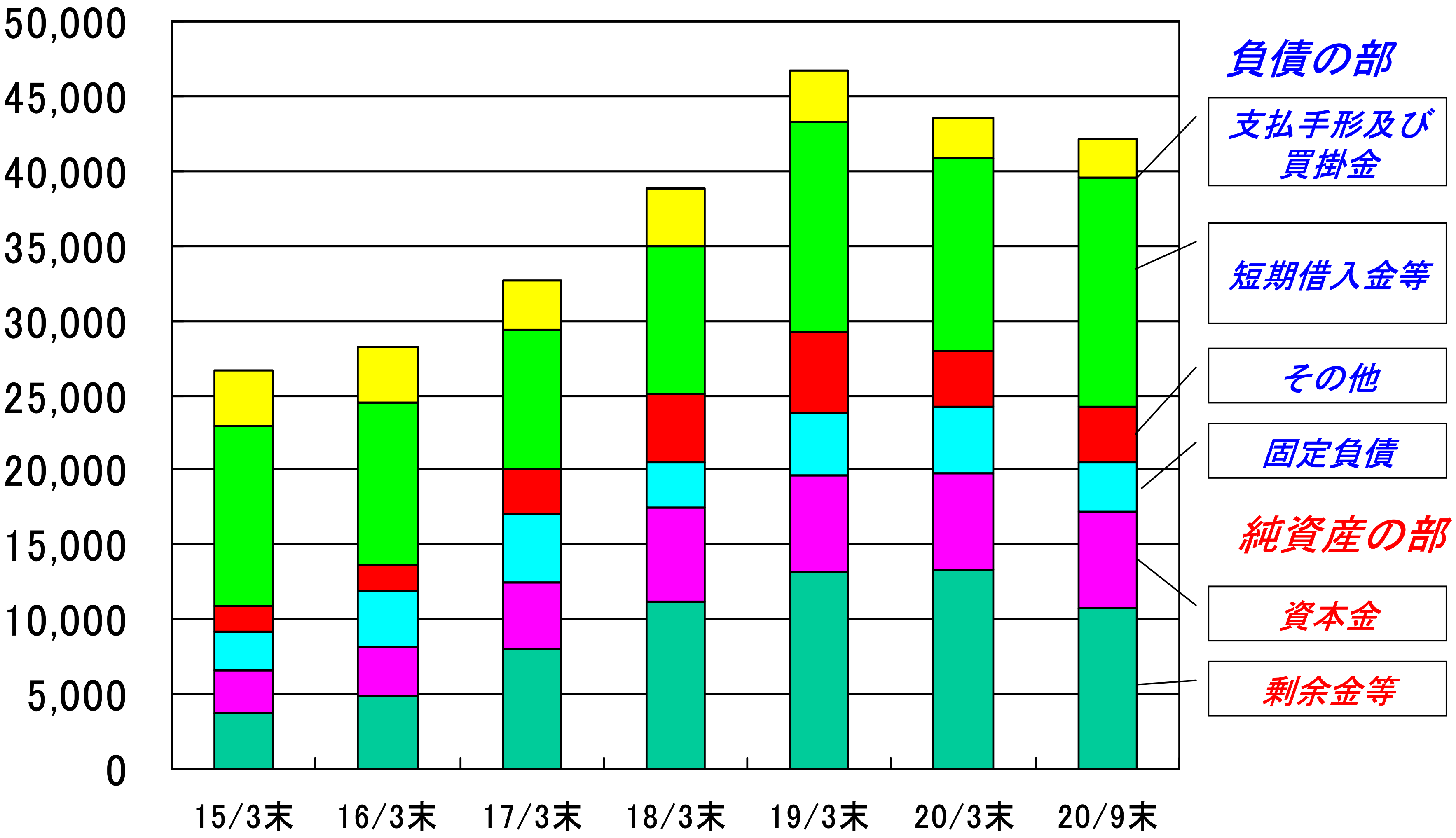
■ 貸借対照表分析　資産の部



財務分析（貸借対照表）

■ 貸借対照表分析　負債・純資産の部

（単位：百万円）



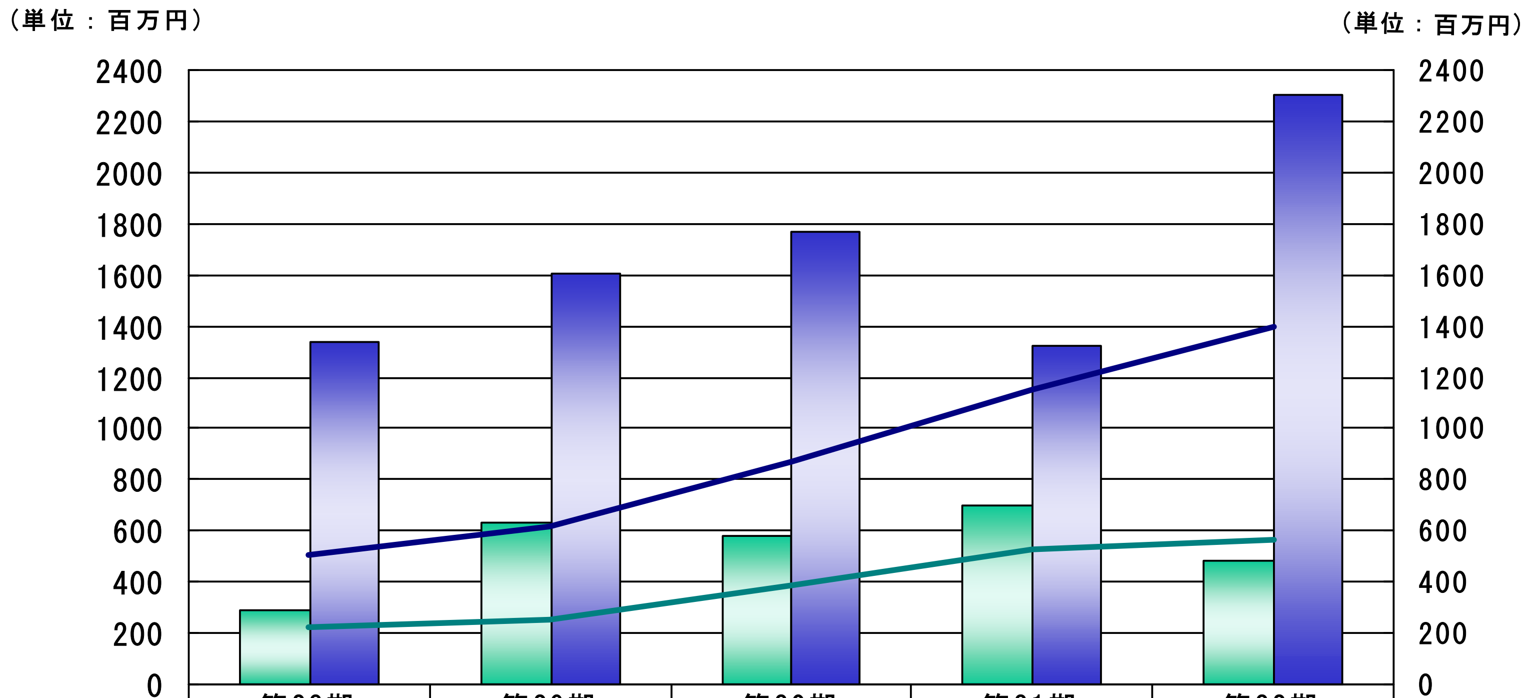
財務分析（キャッシュフロー）

■　キャッシュフロー分析

（単位：百万円）

連結キャッシュフロー	20/3期 2Q累計	21/3期 2Q累計	コメント
営業活動によるCF	1,131	2,566	売上債権の減少+3,076、減価償却費+808、たな卸資産の増加△1,009、税前利益△725
投資活動によるCF	△966	△948	有形固定資産の取得△553 無形固定資産の取得△190
財務活動によるCF	△857	△467	短期借入金の増加+2,479、長期借入金の返済△1,235、自己株式の取得△1,555
現金及び現金同等物の増加額	△660	986	
現金及び現金同等物の期末残高	2,612	4,027	

設備投資・減価償却費の推移



	第28期 17/3	第29期 18/3	第30期 19/3	第31期 20/3	第32期 21/3（予）
中間期設備投資	291	628	580	701	483
通期設備投資	1,335	1,608	1,771	1,325	2,302
中間期減価償却費	223	254	384	529	565
通期減価償却費	502	619	870	1,148	1,398

今期の設備投資計画は、物流倉庫の移設や関係会社での工場新設・拠点拡張のため高水準の予定だが、実施は慎重に判断

２１年３月期通期見通し

（単位：百万円）

連結損益	２０／３期 通期実績	２１／３期 通期見通	前期比	コメント
売上高	34,541	34,380	-0.5%	売上は前期並を予定
売上原価	17,418	17,650	1.3%	引き続き原価低減に努める
販売費及び一般管理費	13,851	15,630	12.8%	販管費の抑制を図る（ロシア）
営業利益	3,272	1,100	-66.4%	
経常利益	2,265	440	-80.6%	
税引き前利益	2,229	420	-81.2%	
当期純利益	1,016	200	-80.3%	
１株当たり利益（円）	45.54	9.46	-79.2%	

計測・計量機器事業　見通し－１

（単位：百万円）

セグメント		20/3期（実績）	21/3期 上期実績	21/3期 下期見通	21/3期（見通）	前期比
計測・計量機器事業	売上高	17,378	8,162	9,141	17,303	-0.4%
	売上原価	10,324	5,056	4,956	10,012	-3.0%
	販管費	7,179	4,057	3,913	7,970	11.0%
	営業利益	-125	-951	272	-679	- %

１．売上

ＤＳＰ事業が前期を上回る見込みだが、半導体不況による電子ビーム関連事業の落ち込みが大きく前期並みを予想

２．販管費

開発費（ＤＳＰ事業）は引続き高水準を維持

⇒今期は営業赤字の見込み

計測・計量機器事業　見通し－２

（単位：百万円）

製品種別	２１／３期 上期実績	２１／３期 下期見通	２０／３期 下期実績	前期比	２１／３期 通期見通	前期比
計測機器	816	1,010	792	27.5%	1,826	1.2%
計量機器	5,451	5,734	5,351	7.2%	11,185	1.5%
計測・制御・シミュレーションシステム（DSP）	1,602	2,284	1,381	65.4%	3,886	33.8%
電子ビーム関連ユニット	293	113	721	-84.3%	406	-75.3%
売上合計	8,162	9,141	8,245	10.9%	17,303	-0.4%

計測機器：引張試験機等の受注拡大に注力し、ＤＳＰ応用の大型試験機も自動車関連を中心に開拓を進める

計量機器：販売ルート別に販売戦略の見直し・徹底を図り、（シェア等の）マーケット優位性を生かして市場を拡大する

ＤＳＰ：予定されているエンジンベンチ等の確実な納品、及び１０月に買収したサム電子機械のＭ＆Ａ効果発現のための体制整備に注力

電子ビーム関連ユニット：上期に引き続き、非常に厳しい状況が続くと予想

医療・健康機器事業　見通し－1

株式会社エー・アンド・デイ

（単位：百万円）

セグメント		20/3期（実績）	21/3期 上期実績	21/3期 下期見通	21/3期（見通）	前期比
医療・健康機器事業	売上高	17,163	8,130	8,947	17,077	-0.5%
	売上原価	7,094	3,507	4,131	7,638	7.7%
	販管費	5,276	3,418	2,854	6,272	18.9%
	営業利益	4,792	1,205	1,962	3,167	-33.9%

１．売上
　　事業環境は全般的に堅調であり、通期では前期並みの売上を予想

２．営業利益
　　ロシアで増加している販売管理費の抑制に努めて収益確保を図る

医療・健康機器事業　見通し－2

（単位：百万円）

製品種別	21/3期 上期実績	21/3期 下期見通	20/3期 下期実績	前期比	21/3期 通期見通	前期比
医療機器	1,079	1,127	1,064	5.9%	2,206	7.0%
健康機器	7,051	7,820	7,864	-0.6%	14,871	-1.5%
売上合計	8,130	8,947	8,927	0.2%	17,077	-0.5%

医療機器：携帯型自動血圧計を中心として、国内マーケットの更なる深耕を図る

健康機器：ロシアでは販売体制強化もあり、引き続き好調を維持する見通し

トピックス１～ＤＳＰ事業強化

㈱サム電子機械の子会社化

今年１０月に、井関農機㈱より全株式を取得

当　社

独自のデジタル信号処理技術（DSP）による最先端の計測・制御・シミュレーション

㈱サム電子機械

油圧サーボ技術をベースに車両のあらゆる部分の強度試験・耐久試験装置で実績

技術補完による競争力の強化と、顧客の囲い込み及び生産体制の強化を実現

トピックス２～ＭＥ事業における取り組み

株式会社エー・アンド・デイ

■ ABPM（Ambulatory Blood Pressure Monitor）の保険点数化に伴う事業拡大

今年4月診療報酬点数改訂により、「24時間自由行動下血圧測定」の点数化が認められた。

「24時間血圧計の使用（ABPM)基準に関するガイドライン」に沿った製品である携帯型自動血圧計の拡販に注力

↓

・新たなソフトウェア及びプリンターターミナルを市場投入
・大学病院との共同研究（日本人における自由行動下血圧追従研究）を計画

トピックス３～ 生産体制の強化に向けて

生産技術の強化とグループ展開による生産拠点の価値増大

生産技術の強化

ＡＤＣＨ（中国）

現状⇒部品の内製化を図った事で、生産コストに引き下げに成功

今後⇒人件費コストの上昇を踏まえ、更なる内製化を進めて生産技術の向上を図る

グループ展開

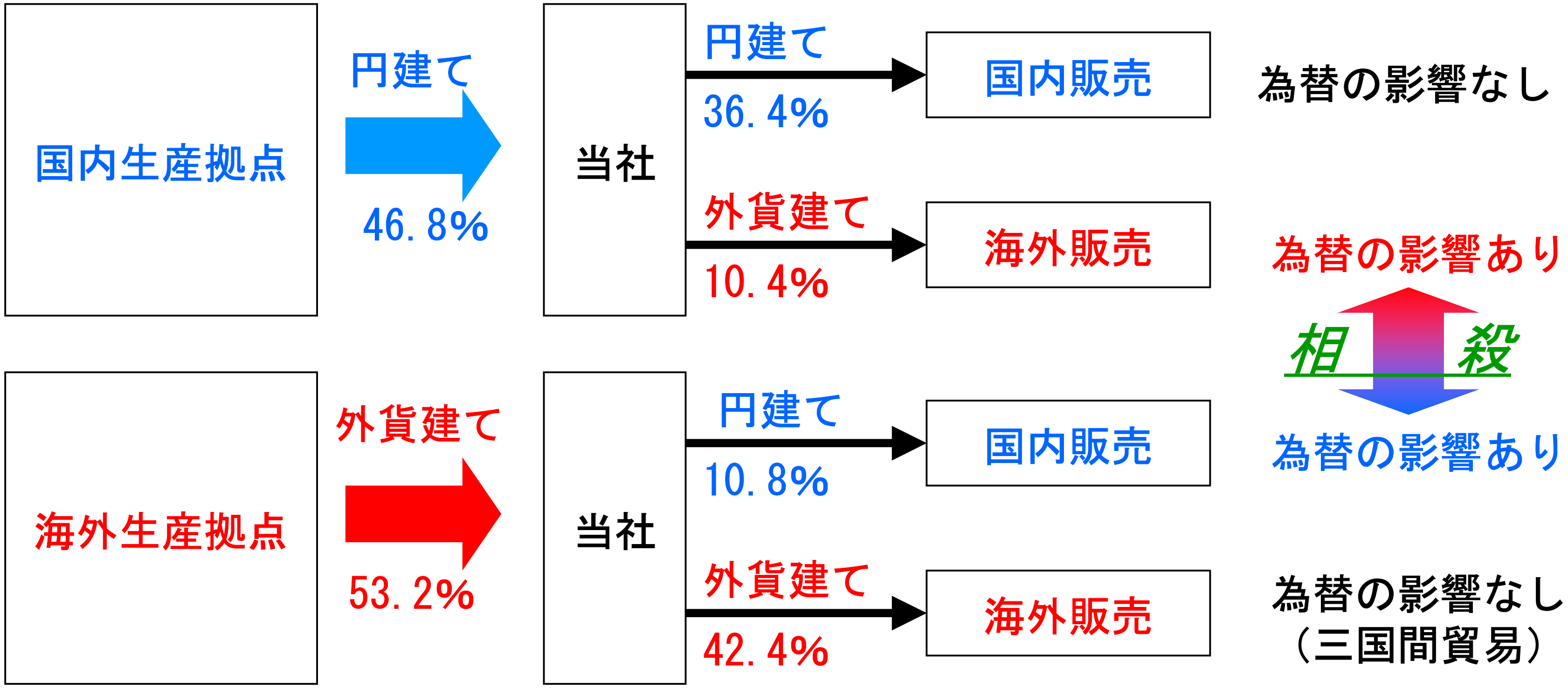
日本・韓国等の生産拠点

ＡＤＣＨで成功した内製化技術を整理して、グループ共有の要素技術として管理・活用する

プロジェクチームを立ち上げて、グループ横断的に取り組む

トピックス４～為替の影響について①

為替変動がフローに与える影響（単体）



総販売高　100.0%

100.0%　総生産高

フローにおいては、相殺により為替変動の影響を受けない

トピックス４～為替の影響について②

ストックの状況～ポジション調整は基本的には完了

単　体

	２０年３月末	２０年９月末	
米ドルギャップ	＋約６０百万米ドル	＋約３百万米ドル	約５７百万減少

従来⇒約６０百万米ドルが１０円円高に振れると為替評価損が約６００百万円発生
現状⇒３０百万円程度の為替差損の計上に止まり、為替変動の影響は限定的
その他通貨として、ユーロ、ポンド、オーストラリアドル等保有しているが、ボリューム的には些少であり為替変動の影響は限定的。

ＡＤＲ

	２０年３月末	２０年９月末	
米ドルギャップ	－約５０百万米ドル	－約２０百万米ドル	約３０百万減少

露ルーブルと米ドルの為替動向の影響は存在するが、２０年３月末に比べ約３０百万米ドルは減少しており、影響度は大幅に減少。

その他現地法人

基本的に自国通貨以外のポジション・ギャップは些少であり、為替動向の影響は限定的

A&D

株式会社エー・アンド・デイ

補足資料

株式会社エー・アンド・デイ

１　グループの概要

２　当社製品紹介（計測機器）

３　当社製品紹介（計量機器）

４　当社製品紹介（医療・健康機器）

５　ＤＳＰシステムとは

６　ＤＳＰシステムの採用事例－１

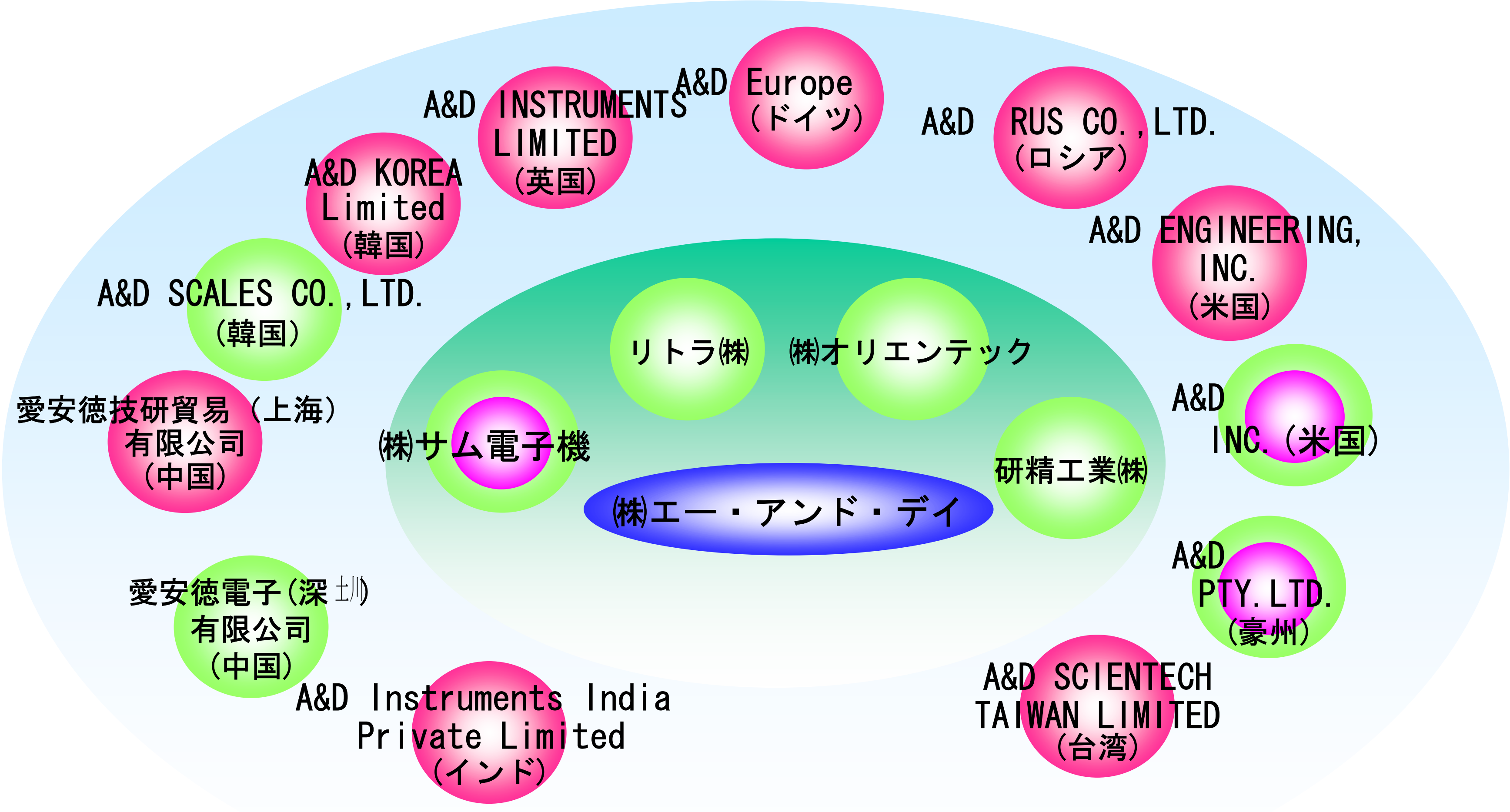
７　ＤＳＰシステムの採用事例－２

８　電子ビーム関連ユニットについて

９　開発の状況

１０　㈱サム電子機械について

グループの概要



Ａ＆Ｄは開発および販売を中心に活動
生産主体は国内外関係会社
海外販売は関係会社経由と直販を併用

生産･開発関係会社
販売関係会社

当社製品紹介（計測機器）

種　　別	概　　　　要	主　要　製　品
波　形　解　析	音・振動等時間的に変化する物理信号を収集および解析	波形解析システム、ＦＦＴアナライザ、データロガー
非破壊検査機器	超音波を利用して溶接欠陥や亀裂・腐食等を調査	超音波探傷器、超音波厚さ計
材料試験機	材料・部品の引っ張り圧縮強度や粘弾性・粘度を測定	引張圧縮試験機、動的粘弾性測定機、粘度計、摩擦摩耗試験機
電子計測器	プロからホビーや家庭まで、多種多様に取り揃えたデジタル電子計測機器	オシロスコープ、デジタルマルチメータ、タイマー、温湿度計、直流電源、壁内センサーetc.

引張圧縮試験機

波形解析システム

防水ペン型温度計

オシロスコープ

超音波探傷器

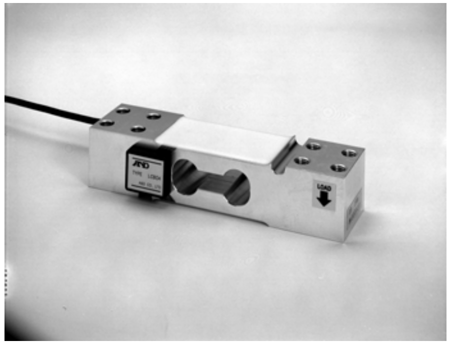
当社製品紹介（計量機器）

種　別	概　　要	用　途　等
電子天びん	軽量の物体の質量を高精度に計量する機器で、最大0.01mgまでの計量が可能	医薬品や精密材料等を対象に、研究開発向けから生産・検査まで幅広く使用
電子台秤	中・重量の物体の重量を計量する機器で、防水、防塵、防爆等、様々な環境に対応	厳しい環境下で使用される産業用から家庭で使用されるものまで、幅広い製品群をラインナップ
インジケータ	計量センサから得た信号を質量や力としてデジタル表示、及び制御を行う	粉・粒状物体の自動計量システム、台秤、トラックの積載量を計量するトラックスケール等に使用
ロードセル	金属製の起歪体に加わった荷重による歪みを検出して、電気抵抗値に変換するセンサ	台秤、トラックスケール、フックに吊り下げて計量するクレーンスケール、その他特殊用途に使用

電子天びん

電子台秤

インジケータ


ロードセル

当社製品紹介（医療・健康機器）

株式会社エー・アンド・デイ

種別	概要	主要製品	特徴等
病院用デジタル血圧計	医療機関や高齢者介護施設向血圧計	携帯型自動血圧計	24時間の日常生活での血圧変動を測定
		血圧監視装置	Sp02(動脈血酸素飽和度)と血圧を同時監視
		バイタルセンサ	血圧・体温・Sp02・ECG等バイタルサイン測定
		全自動血圧計	腕を入れるだけでワンタッチ操作の自動測定
メディカル計量器	医療機関や高齢者介護施設向計量器	身長体重計	身長・体重をデジタル測定、肥満度等も表示
		ベッドスケール	治療時の体重変化を測定、監視、記録
		バリアフリースケール	フラットな計量台、車イス乗車のままや、手すりにつかまった状態で安全に計測
健康機器	在宅での健康管理用機器	デジタル血圧計 上腕式	血圧測定に不規則脈波検知、音声等も付加
		デジタル血圧計 手首式	小型・軽量サイズで外出先でも手軽に血圧測定
		超音波吸入器	温熱、加湿効果でノド、鼻の不快感を緩和
		体重計	50ｇ単位、肥満・痩せの基準ＢＭＩも表示

携帯型自動血圧計

血圧監視装置

全自動血圧計

手首式家庭向デジタル血圧計

家庭向体重計

上腕式家庭向デジタル血圧計

ＤＳＰシステムとは

ＤＳＰシステム

■ ＤＳＰシステムの特徴

◇自動車等の複雑な製品の開発・生産現場において、開発期間の短縮・ローコスト化を実現する画期的なシステムです

つないでテストする

エンジンの試作品

エンジン以外の車両部分をコンピュータにモデル化

エンジン以外の部分が完成していなくても、エンジンを実際の車両に搭載した場合を想定したテストを行う事が可能

DSPシステムの採用事例－1

株式会社エー・アンド・デイ

RPT（Rapid Proto Type）

コンピューター上にECUの試作モデルを作成して、実際のエンジンを制御してテストを行う

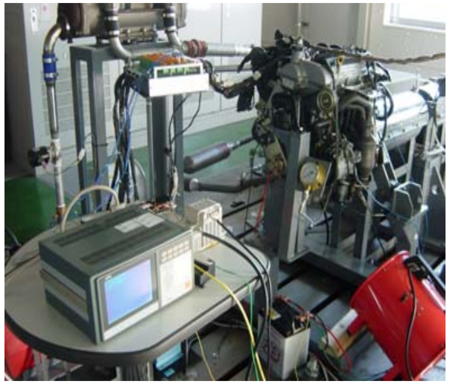
DSPシステム

仮想ECU

実際のエンジンを制御

エンジンの状態をインプット

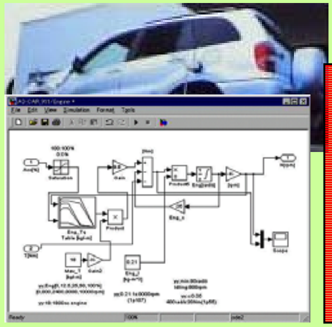
実エンジン



HILS（Hardware In the Loop Simulation）

コンピュータ上に仮想のエンジンや車両のモデルを作成して、試作品のECUのテストを行う

仮想車両



仮想エンジン

DSPシステム

仮想エンジンと車両の状態をインプット

仮想エンジンを制御

実ECU

DSPシステムの採用事例－２

株式会社エー・アンド・デイ

ORION 適合支援自動計測ソフトウエア

１．適合とは

ECU開発プロセスで、ECUがエンジンや変速機などの制御を最適に行うためにECUの設定作業（チューニング）を行うこと。

２．ＯＲＩＯＮの特徴

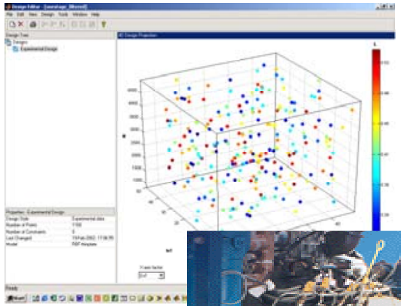
・フレキシビリティ

カスタマイズが容易で、ユーザーが計測アルゴリズムの作成等、各自の仕様に合わせて設定を変更出来る

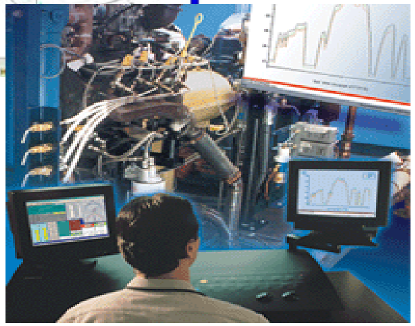
・オープン性

他のシステムとの接続が可能であり、今まで使用していた資産の有効活用が可能

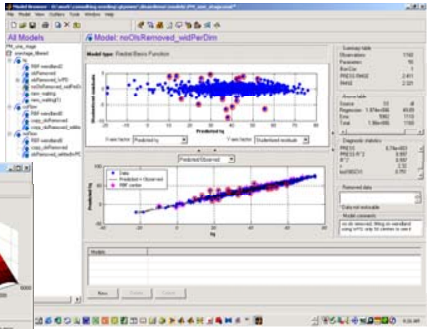
実験計画



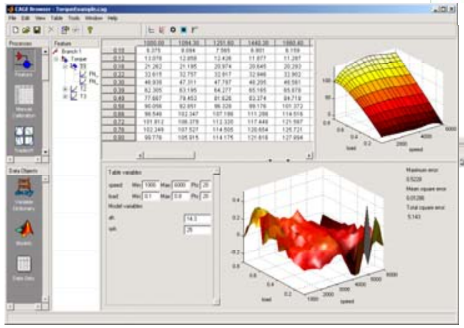
評価試験



ECUのモデル化



適合



電子ビーム関連ユニットについて

電子ビーム関連ユニット

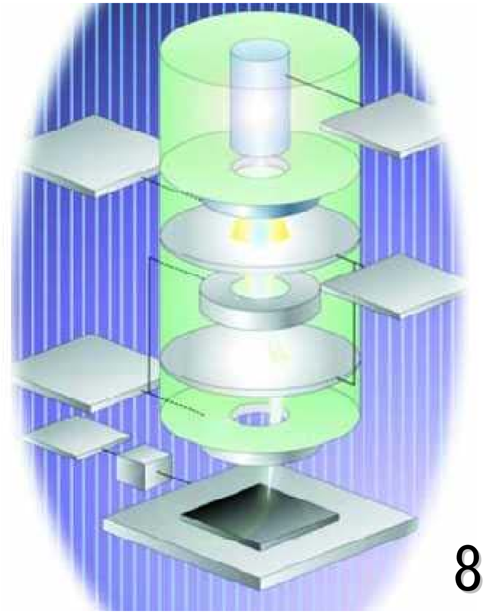
微細な半導体の回路を描画するための手段として、主にマスク製造（半導体のネガの様なもの）に電子ビームが利用されておりますが、当社は電子ビーム露光装置に組み込む基幹ユニットを半導体露光装置メーカーに提供しています

当社が提供する主要なユニット

- ビーム偏向回路

  電子ビームの照射方向を制御するもので、精度・速度ともに世界最高水準です
- 電子銃

  電子ビームを発生させる設備で、世界でもトップクラスの出力と安定稼働率を備えています



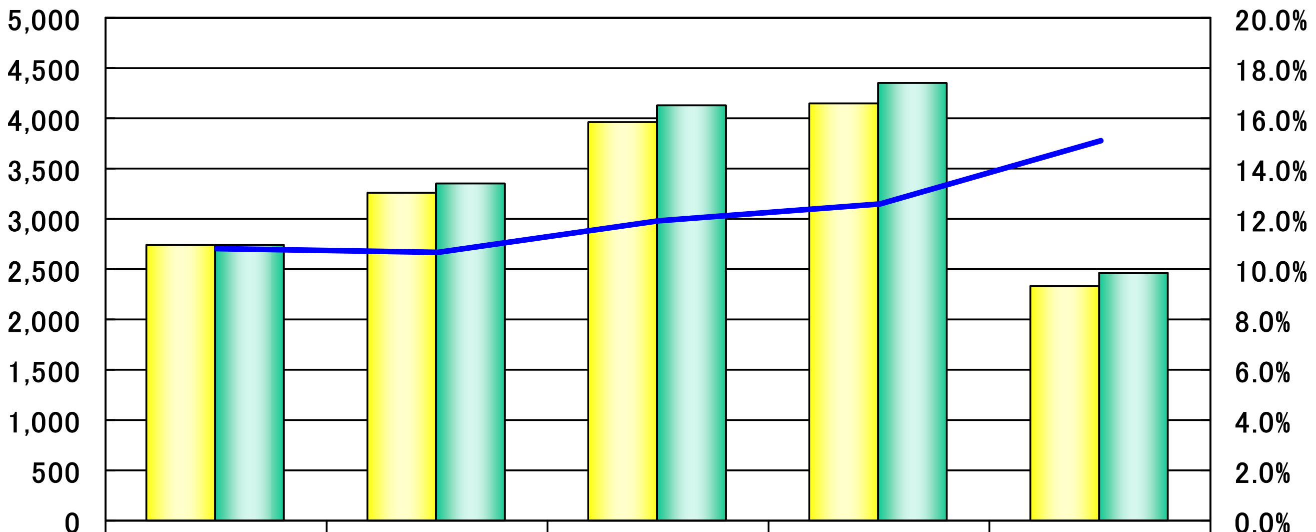
開発の状況

社内資源の多くを開発に投入し、
各事業分野で継続して開発を実施。

（平成20年9月末/Ａ＆Ｄ単体）

既存事業　178名（54.4%）
新規事業　149名（45.6%）
合　　計　327名

開発人員比率（単体）は50.5%



	第28期 17/3	第29期 18/3	第30期 19/3	第31期 20/3	第32期 20/9
研究開発費（単体）	2,741	3,255	3,958	4,152	2,342
研究開発費（連結）	2,741	3,355	4,133	4,358	2,465
売上高比率	10.8%	10.7%	11.9%	12.6%	15.1%

※売上高比率は連結売上で算出

㈱サム電子機械について

社　名	株式会社サム電子機械
所　在　地	東京都三鷹市下連雀８丁目９番20号
設　立　年　月　日	昭和40年９月20日
主な事業の内容	各種試験装置（油圧式疲労試験機、油圧式振動試験機、油圧加振機等）の開発、製造、販売
取　引　先	ジェイテクト、ブリヂストン、日本精工、ＮＴＮ　等
決　算　期	３月31日
従　業　員　数	53名
主　な　事　業　所	東京、愛知、群馬
資　本　金	330百万円

株式会社エー・アンド・デイ